

## 「2023年度第2回グリーンチャンネル放送番組審議会」議事の概要

1. 日 時 2023年12月2日(土) 11:00~12:30

2. 場 所 中山競馬場 会議室

3. 出席者

委 員：石井秀司委員長、小林善一郎副委員長、有吉正徳委員、井口保子委員、  
塩田忠委員、白川次郎委員、山田隆雄委員

財団側：勝見浩二理事長、成沢裕常務理事、鳩山正仁常務理事、横山清弘顧問、  
藤川洋史理事(兼経営企画部長)、住吉恵編成制作部長

4. 内 容

(1)【報告】2023年度第1回放送番組審議会の議事概要の公表について

(2)【審議】2023年6月12日~12月2日の放送番組について

(3)【審議】指定番組について

①ダート競馬 JAPAN (8月14日放送)

②水曜馬スぺ!『ブラックホール2度目の出陣~相馬野馬追 2023~(前編・後編)』  
(前編:10月4日放送、後編:10月18日放送)

5. 議事概要

審議に先立ち、財団側から2023年度第1回放送番組審議会の議事概要及びホームページ  
公表日時(2023年6月30日(金)午前10時)について報告を行った。

【審議】2023年6月12日~12月2日の放送番組について

委員の発言、財団側の説明

<中央競馬全レース中継>

- ・中継のキャスターは、競馬専門チャンネルであるが故に様々な能力が求められるもの  
と考える。てきぱきとした司会進行、競馬に関する深い知識に基づいた出演者とのスム  
ーズなやり取りに加えて、発走時刻変更や競走除外等のアクシデントが発生した際の柔  
軟な対応力が必要だと思ふ。
- ・キャスターについて、どのような考えで土曜日・日曜日の配置を決めているのか。  
⇒競馬が始まる土曜日前半はフレッシュな雰囲気で行進できる方、重賞競走が組まれ  
る日曜日後半には、経験豊富で安定した司会進行ができる方を配置する等、キャスタ  
ーの適性を見て対応している。
- ・3場開催時は、全レース中継とは別にパドック中継を放送しているが、2場開催時はパ  
ドック中継を放送せず、全レース中継を2つのチャンネルで同時に放送している。何か  
有効活用できないものだろうか。  
⇒3場開催時はレースの発走間隔が比較的短くなり、全レース中継では番組進行上ど

うしてもパドックや本馬場入場をゆっくりと紹介できないため、パドック中継でこれらの映像を視聴者にお届けしている。現在も、全レース中継と重複しないタイミングでパドックや本馬場入場を放送する等の工夫をしている。また、テレビではなくWEBの話となるが、グリーンチャンネル WEB マルチでは、合計で最大5チャンネル(全レース中継、パドック中継、開催競馬場専用チャンネル)の視聴が可能である。パドック中継については、引き続き安定的運用に努めてまいりたい。

- ・4レース終了後の昼休みの時間帯に、当日のメインレース調教VTRやCM等を放送するのではなく、いち早くパドック映像を放送する方がよいのではないかと。  
⇒最近パドック周回時間も短縮の傾向にあり、上記時間帯は出走馬がパドック入りしておらず、調教VTR等を放送していることをご理解頂きたい。引き続き、出走馬のパドック入り確認でき次第、速やかに放送するよう心掛けたい。
- ・各レース終了後にレース解説があると、より見応えのある番組となるのではないかと。  
⇒貴重なご意見として頂戴する。

#### <スタリオンライブラリー>

- ・現在は月曜日の放送であるが、種牡馬紹介番組であるということに鑑み、夏の新馬戦シーズンだけでも土日放送してみたいかと。  
⇒貴重なご意見として頂戴する。

#### <競馬場の達人>

- ・様々な分野で活躍されている方が出演しており楽しく視聴できる反面、購入した馬券が1度も的中しない方もいる。「達人」という文言から受ける印象と異なる結果にガッカリすることもあるが、的中しないのもまた競馬と思うと、そのような放送回があってもよいかなと思う。

#### <がんばる！畜産！7>

- ・世間で報道されている畜産に関するニュース(需要と供給のギャップによる乳製品廃棄問題、鳥インフルエンザ、豚熱の発生等)にあわせて、タイミングよく関連する番組を放送できると、視聴者に対して畜産に関する問題を一層訴求できるのではないかと。  
⇒貴重なご意見として頂戴する。

#### <夏の特別ロードショー DETTORI>

- ・世界を舞台に活躍する名騎手ランフランコ・デットーリの半生を描いたドキュメンタリー映画として大変見応えがあった。一方、120分という長編番組であったため、ちょっと長いかもしれないとも感じた。

#### <海外競馬中継>

- ・対象レース中継後のレースリプレイを、番組内でもっと放送して欲しい。レースリプレイと解説をじっくりと見て、レース後の余韻を楽しみたいのだが、今の番組構成だと、唐突に別のコーナー(レースとは直接関係のないセリ市場の話題など)に移ってしまう。
- ・番組の解説者に変化をつけてほしい。スポーツ紙の競馬面を見ると、最近、海外競馬に

関する記事を執筆している記者が増えてきており、そのような方を起用してもよいのでは。ベテラン解説者の解説も味わい深いものはあるのだが。

⇒貴重なご意見として頂戴する。

<その他>

- ・グリーンチャンネルの番組を1週間見ていると、ある番組に出演されている方が他番組にも出演しているように感じる。出演者について、もっと幅広く起用してみたいか。

⇒貴重なご意見として頂戴する。

【審議】 指定番組について

① 『ダート競馬 JAPAN』(8月14日放送)

委員の発言・財団側の説明

- ・展望レースが3つもあり、番組進行が忙しく感じた。司会の方は上手に番組を進行していたが、解説者の早いしゃべりについていけず、予想をメモすることが難しいと感じた。

⇒貴重なご意見として頂戴したい。

② 水曜馬スぺ! 『ブラックホール 2 度目の出陣～相馬野馬追 2023～ (前編・後編)』  
(前編:10月4日放送、後編:10月18日放送)

委員の発言・財団側の説明

- ・出演した騎手のコメントに優しい人柄や馬に対する愛情がよく表れていて、大変面白く視聴できた。
- ・前編で騎手がブラックホールに話しかけながら調教をつけるシーンについて、映像が長すぎると感じた方もいれば、騎手と馬との絆が伝わってきて心温まると感じた方もいたと思う。後編は相馬野馬追という祭典を詳しく紹介しており、迫力ある映像をじっくりと堪能できた。

⇒ 前編については、騎手と馬との絆を伝えたいという制作意図があった。

- ・本番組を制作するきっかけとなったのは、相馬野馬追という祭典に注目したからなのか、それとも元競走馬であるブラックホールの存在に焦点を当てようとしたからなのか。

⇒元競走馬であるブラックホールの存在に焦点を当てたいと思ったことがきっかけである。ブラックホールが現役競走馬を引退した後、第二の馬生として相馬野馬追という舞台に立つために奮闘している様子を知り、SNS等で様々な情報を収集していくうちに、ブラックホールと現役騎手の絆を取り上げたいという思いが強くなり制作した番組である。なお、番組では関係者が一体となって野馬追へ挑戦していく過程や、野馬追本番で繰り広げられた迫力ある場面も可能な限り紹介した。

以上